

今秋闘争の爆発かちとり 81年3月決戦勝利の体制うちたてる!

第3回 動労千葉青年部定期委員会



80.10.8 No.552

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九(公衆)〇五三(22)七二〇七

第三回動労千葉青年部定期委員会は、十月五日佐倉市中央公民館で、代議員・傍聴者一〇〇余名を結集し、圧倒的にかちとられた。委員会では、当局・権力・革マル一体となったこの一年間の動労千葉破壊攻撃との闘いの勝利を総括し、いよいよ軍事大国化と戦争への道を突き進む世界と日本の動向のなかで、歴史の求める試練に対し、八〇年三里塚決戦の爆発こそが軍事大国化を阻止し八〇年代を切り拓く道であることをしっかりと確認した。八一年三月のジェット燃料暫定貨車輸送延長阻止の闘いは、その戦略的環を握る闘いであり、動労千葉のみならず、日本階級闘争全体の動向を左右する大闘争として、青年部のもてる力の全てを尽くして総決起することとを、それにふさわしい活発な討論のなかから確認したのである。

戦争と反動の嵐をつき破り、今こそ力強く八〇年代へ進撃せよ

委員会は議長団に佐倉支青永井委員、成田支青佐藤委員を選出し、力強いシュプレヒコールで開会、動労千葉関川委員長、地元佐倉支部堀口支部長、三里塚反対同盟・北原事務局長、部落解放同盟千葉連谷川副委員長、支援共闘会議及び東京実行委員会を代表して杉並区議会議長長谷川氏らの来賓のあいさつ、県労連青年協をはじめ、三〇通にも及ぶ祝電、メッセージの紹介そして委員会の準備支部であった佐倉支部青年部準備委員長鈴木君の挨拶を受けた後、報告と活発な討論に入った。

とりわけ、委員会の準備をすべて担い圧倒的な傍聴員をもつて参加した佐倉支青代議員は、「本部」革マル——裏切り分子土屋粹らとの闘いを通してつくりあげてきたこの一年間の前進の報告と「『本部』革マル——土屋粹によるペテン的な『ジェット特別決議』は、来年三月のジェット決戦を破壊することを目的にしたものだ。佐倉支部青年部は絶対にこれを許さず闘い抜く」と力強い決意を表明した。また、津田沼支青の代議員からは「遂に革マル・松崎は、『五五・一〇ダイ改』の中で東京三局乗務員運用合理化を裏切り妥結した。東京地本内の各職場で怒りの声が大きくまき起っている。いよいよ革マル松崎は、職場労働者の利益を売り渡し、セクト的に延命をはかる当局の尖兵としての本性を鮮明にしてきた。断じて彼らを許さず、津田沼は頑張っていきたい。」と怒りをこめて弾劾した。

拠点佐倉支部を先頭に活発な討論を展開

その他、各支部の多くの代議員より、「来年三月の闘いの爆発のためにも、今秋十月闘争が決定的、10・10東京実行委、10・19三里塚中央集会、10・21国際反戦デーへの総決起体制をつくろう」「今全国大会で突如もちこんだ『反ファシズム統一戦線』なる路線は、新たな『謀略』デマ運動だ。三里塚や動労千葉をネオ・ファシストだなどという粉砕せよと言っている。彼らこそ最も悪質な現代のファシストではないか。又、革マル派による目にあまる動労私物化故に、おこるべくしておこったともいえる『小谷襲撃問題』を利用して例の革マル派翼賛路線を全面化しようとしている。こんな『水本』ばりの謀略もあそび運動を断じて許してはいけない」等の熱のこもった討論が続いた。

若々しい力で、八一年三月決戦勝利の体制うち固める

そして、その熱気を体現するよう、八一年三月決戦にのぞむにふさわしい若々しい新役員体制を満場の拍手で選出したのである。

最後に、青年部は一切の反動を突き破り、八一年三月の大決戦に勝利するであろう。われわれはなつた一点の火花がいよいよ燎原の炎となつて燃えあがる時がきたのである」との委員会宣言を採択し、全ての参加者が闘いへの決意を打ち固め歴史の歯車を突き動かす新たな第一歩を踏み出したのである。